2026 年 10 月 1 日

草の根技術協力（草の根パートナー型）案件概要表

Ⅰ．事業の概要	
1. 対象国名	マラウイ共和国
2. 案件名	マラウイ国ムジンバ県におけるエコサン肥料の普及による農業家計改善支援
3. 事業の背景と必要性	マラウイでは人口の約 85%が農村部に居住し、農業は GDP の約 28%を占める基幹産業であるが、小規模農家を中心に生産性が低く、食料安全保障や所得向上が大きな課題となっている。政府は長期開発戦略「Malawi 2063」において農業生産性向上と商業化を重要課題に掲げているが、化学肥料の価格高騰、気候変動の影響等が大きく、成果発現に課題が生じている。本事業は、先行事業※で成果が確認されたエコサントイレ由来の有機肥料の活用を継続するとともに、農産物の販売方法の改善を支援することで、小農の生産性向上・家計改善を図るものである。化学肥料依存の低減と持続可能な農業を促進する本取組は、SDGs 目標 2 及び「Malawi 2063」、さらに JICA の「人間の安全保障」と包摂的かつ持続可能な開発を重視する協力方針にも合致するものである。 ※「未利用資源の活用によるムジンバ県の小農の農業収入向上支援」（草の根パートナー型） 実施団体：国立大学法人京都大学（2021 年 10 月～2024 年 10 月）
4. プロジェクト目標	エコサン肥料の活用により、小農の家計が改善される。
5. 対象地域	ムジンバ県
6. 受益者層 （ターゲットグループ）	直接受益者：ムジンバ県小農 150 世帯 間接受益者：上述小農 150 世帯周辺に住む小農約 10 万人
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<アウトプット> 1. 小農が市場志向型農業の方法を学び、家計改善の作物が選定される 2. エコサントイレが整備され、正しく利用される 3. エコサン肥料を活用して作物が生産・販売される <活動> 1-1：エコサントイレやエコサン肥料を活用した家計向上に関心を有する小農を選定する 1-2：市場での販売方法を研修する 1-3：サプライチェーンの現状を把握する 1-4：市場調査を実施する。 1-5：調査に基づき小農自ら作物を選定する 1-6：作物販売を支援し、出納管理をモニタリングする 2-1：エコサントイレ新規導入世帯を選定する 2-2：エコサントイレ建築資金の出所を把握する 2-3：エコサントイレを建築する 2-4：エコサントイレの使用法を研修する 3-1：エコサン肥料の製造法を研修する 3-2：肥料としての安全性を評価する 3-3：肥料としての性能を評価する 3-4：エコサン肥料を用いた栽培法を研修する 3-5：エコサン肥料を用いて作物が栽培される 3-6：栽培された作物が販売される
8. 実施期間	（西暦）2026 年　10 月～ 2029 年　9 月（　3 年 ）
9. 事業費概算額	99,903 千円
10. 相手国側実施機関 （カウンターパート）	カウンターパート機関（相手国政府機関）：ムジンバ県議会、 案件実施のために活動を共にする機関：ムジンバ県北部農業事務所、Tiyeni（現地 NGO）、ルニャングワ農業試験場
Ⅱ．団体の概要	
1. 実施団体／指定団体	公益社団法人　日本国際民間協力会（NICCO）
2. 主な活動内容	1979 年にカンボジア難民救援会として発足して以来、これまでに 26 の国と地域で支援を展開している。人々の経済的・精神的な自立を目指し、「緊急災害支援」、「環境に配慮した自立支援」、「人材育成」の三つの柱を軸に、アフリカ、中東、東南アジアなど途上国での自立支援や難民支援、日本国内外での自然災害支援に取り組んでいる。